

令和 7 年 度

兵庫県公立高等学校学力検査問題

国 語

注 意

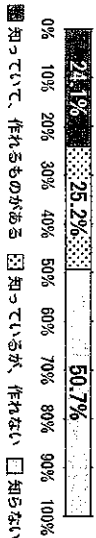
- 1 「開始」の合図があるまで開いてはいけません。
- 2 「開始」の合図で、1ページから10ページまで問題が印刷されていることを確かめなさい。
- 3 解答用紙の右上の欄に受検番号を書きなさい。
- 4 解答用紙の  の得点欄には、何も書いてはいけません。
- 5 答えは、全て解答用紙の指定された解答欄に書きなさい。
- 6 問題は五題で、10ページまであります。
- 7 「終了」の合図で、すぐ鉛筆を置きなさい。
- 8 解答用紙は、机の上に置いて、退室しなさい。

問題は、次のページから始まります。

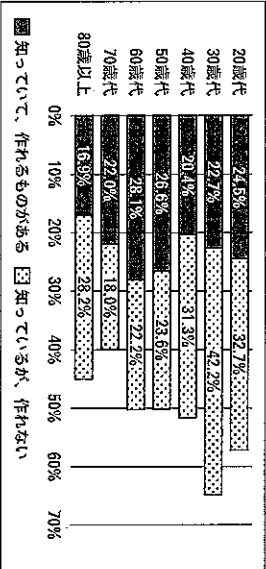
けて準備することになった。次の【連絡】・【資料1】・【資料3】を参考にしながら【会話文】を読んで、あとの問いに答えなさい。

【資料1】郷土料理の認知と実践

【全体の割合】



【知っている人の年代別内訳】



（「食育推進計画」（兵庫県）より作成）

【連絡】校内発表会について

トライやる・ウイークが終わりました。以前から知らせていたように、校内発表会を実施します。発表までの留意点は以下のとおりです。

- 1 発表用のスライドを作成してください。
- 2 スライドに次の内容を入れてください。
 - 活動内容とその感想
 - 活動中の写真
 - 活動内容に関連することの調査
 - 上記の調査結果を自分の生活と関連づけて行った考察・提案
- 3 1年生に加えて、事業所の方にも来られます。話し方・表現に注意しましょう。

【会話文】

生徒A 品出しや倉庫の整理と忙しい五日間だったね。

生徒B 毎日①バリエタリーに富んだ商品が運び込まれてくるのに驚いたよ。

生徒C スーパーの中で加工して、ラベルを貼るものもあるんだね。②「今が旬です」というラベルの他に、「兵庫県産」とか産地を示すラベルもあったね。

生徒D 惣菜コーナーでは兵庫県の郷土料理を特集する時期があるらしいよ。

生徒A 郷土料理か……私は家でそういうのを食べた記憶がないんだけど、みんなはどう。

生徒D 私と同じ。インターネットで県内のどれくらいの人が郷土料理を作れるのか調べてみようよ。

生徒B 【資料1】の「郷土料理の認知と実践」で県内の大まかな傾向が分かるね。

生徒C そうだね。そういえば、給食で地元の食材を使っていたよね。今度は給食について調べてみよう。

生徒B 賛成。「地産地消」ってことだね。県内の他の地域の給食も気になるね。

生徒A 【資料2】によると、④ ということが分かるよ。

生徒C 地域の特徴が出ていて面白いね。地元の食材を食べる取り組みが進んでいるんだね。

生徒D うん、確かにそうだね。でも、どうして地産地消って大事なのかな。特別安いわけじゃないかな？

た気がするし、どんなメリットがあるんだろう。

生徒B ③【資料3】を見て。給食で地元の食材を使うことについて書いてあるよ。

生徒A そういえばスーパーでも生産者の方の名前や写真が売りに出ているね。

生徒D 郷土料理から始まって、地産地消、SDGsまで広がったね。じゃあ活動内容で伝えたいことは何かな。私はスーパーのお客さんにかけてもらってうれしかったことはを紹介したいね。

生徒C たくさんの人にお世話になったから、感謝の気持ちを伝えたいな。

生徒A 忙しく働いたこともね。それに店員の立場からスーパーを見ると、たくさんの人が一つのお店を支えていることに気づけたよ。

生徒B その気つきは発表で伝えたいね。⑤発表の構成をどうすればいいかな。

生徒D 先生や一年生はどんな活動をしたか気になると思うから、具体的な話から始めようよ。

生徒C 発表の最後には感謝の気持ちをこめてお礼を言いたいよ。

生徒D お客さんからのことは活動と関係が深いから、すぐあとの方がいいと思うんだけど。

生徒B そうしよう。聞き手がイメージしやすいところから始めた方がいいね。そのあとで集めた資料の説明をしよう。写真ははどうしようか。

生徒A スライドに載せるものだね。写真は選んでおくから、まだ確認してね。

【資料3】 地場産物等の活用の推進

学校給食に地場産物を活用し、食に関する指導の教材として用いることにより、子どもがより身近に、実感を持って地域の食や食文化等について理解を深め、食料の生産、流通に関わる人々に対する感謝の気持ちを抱くことができます。また、地場産物の活用は、生産地と消費地との距離が縮減されることにより、その輸送に係る二酸化炭素の排出量も抑制されるとともに、流通に要するエネルギーや経費の節減等環境負荷の低減にも寄与するものであり、SDGsの観点から有効です。

(「食育白書」(農林水産省)より作成)

【資料2】 学校給食における地場産物活用状況

三田市	地域産の米を使用。月に一度の「和食の日」に牛乳のかわりに地域産の茶を提供。
明石市	地域産または明石近郊産の米を使用。毎月19日ごろに「食べよう兵庫の食材の日」献立を設定し、県産等の食材を指定して調達。
丹波篠山市 たんばのさやま	特産品(黒大豆、山の幸、丹波栗)を使用した独自のメニューを考案。
新温泉町	地元の漁業組合よりホタルイカ、アカエビ、セコガニ、アカイカ等は無償で提供を受け、給食で使用。
南あわじ市	島内企業より商品化できなかった淡路島産タイの提供があり給食に使用。米は地域産のものを使用。特産品であるたまねぎを給食で使用。市内水揚げの魚介も給食に使用。

(「学校給食の現状」(兵庫県教育委員会)より作成)

問一 傍線部①の意味として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 大きな イ 立派な ウ 個々の エ 種々の

問二 傍線部②の漢字の読み方を平仮名で書きなさい。

問三 傍線部③を説明した次の文の空欄 a・bに入る最も適切なことばを、あとの各群のア～エからそれぞれ一つ選んで、その符号を書きなさい。

兵庫県内の郷土料理を知っている人の割合は、全体では約 a 程度になっており、それを年代別に整理したグラフを見ると、 b ということが分かる。

ア 50% イ 40% ウ 25% エ 20%

ア 郷土料理を知っている人の割合は、30歳代以上で減少を続ける
イ 40歳代以下では、郷土料理を作れない人の方が作れる人よりも多い
ウ 全年代で、20%以上の人が郷土料理のなかで作れるものがある
エ 郷土料理を作れない人の割合は、50歳代以上で増加を続ける

問四 【会話文】の空欄④に入る最も適切なことばを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 二つの地域が19日の献立を工夫している
イ 地域産果物が毎月使用される地域がある
ウ 二つの地域が地域産の米を使用している
エ 地域産魚介類が毎月提供される地域がある

問五 傍線部⑤の要旨をスライドにまとめるときに気をつけることとして最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 地場産物の活用が子どもたちと地球環境に与える影響についてまとめる。
イ 生産地と消費地を結ぶ流通事情の改善が食文化の変容につながったことを整理する。
ウ 自然の恵みへの感謝と生産物に関わる人々への感謝を中心にまとめる。
エ 学校給食が子どもたちの健康増進とSDGsに関わっていることを整理する。

問六 傍線部⑥について、Aさんたちが考えた「構成」として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 資料の説明→お礼→活動内容→お客さんのことば
イ お客さんのことば→資料の説明→活動内容→お礼
ウ お礼→お客さんのことば→資料の説明→活動内容
エ 活動内容→お客さんのことば→資料の説明→お礼

問七 【会話文】の話し合いのあと、Aさんは【連絡】にあることを相談し忘れたと気づいた。相談し忘れたことの説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア スライドに掲載する活動中の写真
ウ 事業所に対する活動後の印象
イ 調査結果を自分の生活に結びつけた考察・提案
エ 活動後に事業所の人からかけてもらったことば

二 次の書き下し文と漢詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

【書き下し文】

南山の早行

温庭筠

晨に起きて征鐸を動かす
客行故郷を悲しむ

鶏声茅店の月

人跡板橋の霜

柳葉山路に落ち
枳花駅牆に明らかなり
(宿場の塩根にきれいに咲いている)

因りて思ふ杜陵の夢
鳧雁回塘に満つるを

【漢詩】

商山、早行

晨起動征鐸

温庭筠

客行悲故郷

人跡板橋，霜

鶏声茅店，月

柳葉落山路

枳花明駅牆

因思杜陵，夢
鳧雁滿回塘

【唐詩選】

(注) 商山——都の長安から南東に約百キロ離れた山間の町。

征鐸——出発の時に鳴らす鈴。 枳葉——枳の葉。

枳花——からたちの花。春に咲く。

杜陵——長安近郊にある名所。

鳧雁——鴨や雁などの水鳥。 回塘——池のほとり。

問一 書き下し文の読み方になるように、傍線部に返り点をつけなさい。
問二 【解説文】を読んで、空欄a、cに入る適切なことばを、aは二字の漢字、bは一字の漢字で書き、cはあとのア～エから最も適切なものを一つ選んで、その符号を書きなさい。

【解説文】

「南山の早行」は、唐の時代に温庭筠が作った五言律詩である。第三句と第四句、第五句と第六句で、構造が似て対応関係にある二つの句を並べる表現方法である a が用いられ、南山とその周辺の景色が描写されている。なかでも第三句と第四句は印象深い。「茅店」と「板橋」、「月」と「霜」のように、品詞が同じだけでなく、建築物、自然物というように種類も同じ語を並べている。さらに、「鶏声」と「人跡」では、聴覚と b 覚とという異なる感覚の組み合わせで、詩の世界を立体的に表現している。

一方で、第七句と第八句では作者の内面が表現されている。これらは、第二句の「故郷」が長安だということと踏まえると、作者が c 状況を表現したものと理解することができる。

ア 南山までの旅路を振り返って、杜陵や水鳥たちの様子を思い出し、再び長安で暮らすことを期待している

イ 長安で悲しい思いをして旅に出たものの、杜陵や水鳥たちの様子を思い出し、長安に戻る決意を固めている

ウ 旅先の南山あたりの景色を見ることが、杜陵や水鳥たちの様子を思い出し、長安を懐かしく思っている

エ 懐かしい杜陵や水鳥たちの様子を思い出し、孤独感を乗り越え、旅を続けていこうと前向きになっている

三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ある時、義貞大勢を率し出陣せられし時、制札を立てらるるその趣は、

「諸士下々に至るまでも、作を刈とり、人家に押し入り、乱妨狼藉

して、百姓等をなやます者あらば、すみやかに罪科に行ふべし」と、雪立

置かれけるに、かの小山田太郎、青姜を刈とり、我が乗り馬に付けて陣

屋に帰りしを、時の奉行すなはちこの旨言上す。義貞つくつくと思案し

て、「この小山田はおして法度を犯すべき人にあらず。もし兵糧にや詰ま

りたるらん。陣屋を見よ」とて見せられしに、武具、馬具はさはやかにし

て兵糧は一粒もなし。義貞この旨を聞こしめし、大きに赤面して、郎徒の

つかれは將の恥なり」とて、小山田には八木、麦の本主にも引物たまはり

しとなり。この情けの程を感じて、湊川にて命に替はりしとかや。

(江島為信『身の鏡』)

(注) 義貞——新田義貞。鎌倉時代の武將。

小山田太郎——新田義貞の家来。

八木——米の異称。

本主——本来の所有者。

問一 二重傍線部を現代仮名遣いに改めて、全て平仮名で書きなさい。

問二 傍線部①の主語として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 義貞 イ 小山田 ウ 奉行 エ 本主

問三 傍線部②の義貞の心情として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 百姓等へかけた迷惑をわびて欲しいと小山田の改心を願っている。
イ 一人のために法度を曲げられないと小山田を罰しようとしている。
ウ 法を破る者ではないはずだと小山田の人柄を信じようとしている。
エ 罰を恐れる人間ではないはずだと小山田の豪胆さを評価している。

問四 傍線部③と義貞が考えた理由として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 部下たちに慌てた姿を見せたから。
イ 部下たちを困窮に追い込んだから。
ウ 百姓等による抗議を受けたから。
エ 百姓等を厳しい法律で苦しめたから。

問五 本文から読み取れる義貞の人柄の説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 厳しい規則を破ってまで小山田が罪を犯したことを知ると、その状況を調査し、規則を改めることができる柔軟な考え方を持つ人物。
イ 小山田が罪を犯したことを悔いていると聞き、その罪を不問にすることにより一層の働きを小山田に期待しようとする賢明な人物。
ウ 罪を犯した小山田と麦の元の持ち主との間を取り持つことで、小山田には罰を与えずに罪を償う機会を与える大らかな心を持つ人物。
エ 小山田が罪を犯した原因は自分にもあったことに気づくと、小山田の罪を許し、麦の元の持ち主にもおねびの品を贈る懐が深い人物。

四 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ひこみ思案な中学校二年生の野々歩は、「森のようちえん」にボランティアとして携たづなわることになった。ある日、野々歩は幼稚園の先生のゆりっぺ・森っちと、園児の岡田輝・修也・園部あやめ・ハル・エリたちと森へ出かける。町の住人の陽子さんから届いた屋敷を一緒に食べたあと、「終わりの会」で園児たちが話を始めた。

「岡田輝です。聞いてください。橋をつくって、修也くんと遊んだのが楽しかったです」

輝くんが話し終わるやいなや、「はいはい」「はあーい」とまたいつせいしに手があがった。みんな話したくてたまらないって感じ。「だから意見はありませんか」クラス委員の声だけがむなしくひびく、野々歩たちのホムルムと大違ちがいだ。

「じゃあ、あやめちゃん」

輝くんからあやめちゃんにマイクがまわった。

「園部あやめです。聞いてください。お店屋さんごっこがたのしかったです」子どもたちはつきつきと立って発言した。いつものくせで野々歩はそっ

とハルくんの背後うしろにかくれた。

そのあいだも、空はどんどん暗さを増していき、会の終わりに全員で山に向かつて、「ありがとうございまして」と頭をさげるころには、こすえにあたる雨が大きな音を立てていた。子どもたちにならって、母親がリュックに入れてくれていた雨具を急いで着こむ。それでも、ようしやなく首筋から入りこんでくる雨にブルッと身ふるいがでた。「気に気温がさがっている」

来たときに車を止めた場所まで、うっそうとした杉林のあいだの林道を急ぐ。石がころころして歩いて歩きにくいうえに、作業用車両しやうりやうしやうのわだちが残る道には、すでにあちこち水たまりができていた。油断すると足をとられる。

「うーん、うーん」

顔にあたる雨がうっとうしくて足をはやめる野々歩の後方から、なにやら苦しげな声が出た。ふりかえると、あやめちゃんが、大きな炊飯器炊飯器をかかえてうめいている。ハルくんとエリちゃんが手をそえてはいるものの、ほとんど助けにはなっていない。炊飯器を陽子さんの店にかえすために、幼稚園バスまで運ばなきゃいけないのだ。

③ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ ㏀ ㏁ ㏂ ㏃ ㏄ ㏅ ㏆ ㏇ ㏈ ㏉ ㏊ ㏋ ㏌ ㏍ ㏎ ㏏ ㏐ ㏑ ㏒ ㏓ ㏔ ㏕ ㏖ ㏗ ㏘ ㏙ ㏚ ㏛ ㏜ ㏝ ㏞ ㏟ ㏠ ㏡ ㏢ ㏣ ㏤ ㏥ ㏦ ㏧ ㏨ ㏩ ㏪ ㏫ ㏬ ㏭ ㏮ ㏯ ㏰ ㏱ ㏲ ㏳ ㏴ ㏵ ㏶ ㏷ ㏸ ㏹ ㏺ ㏻ ㏼ ㏽ ㏾ ㏿ 㐀 㐁 㐂 㐃 㐄 㐅 㐆 㐇 㐈 㐉 㐊 㐋 㐌 㐍 㐎 㐏 㐐 㐑 㐒 㐓 㐔 㐕 㐖 㐗 㐘 㐙 㐚 㐛 㐜 㐝 㐞 㐟 㐠 㐡 㐢 㐣 㐤 㐥 㐦 㐧 㐨 㐩 㐪 㐫 㐬 㐭 㐮 㐯 㐰 㐱 㐲 㐳 㐴 㐵 㐶 㐷 㐸 㐹 㐺 㐻 㐼 㐽 㐾 㐿 㑀 㑁 㑂 㑃 㑄 㑅 㑆 㑇 㑈 㑉 㑊 㑋 㑌 㑍 㑎 㑏 㑐 㑑 㑒 㑓 㑔 㑕 㑖 㑗 㑘 㑙 㑚 㑛 㑜 㑝 㑞 㑟 㑠 㑡 㑢 㑣 㑤 㑥 㑦 㑧 㑨 㑩 㑪 㑫 㑬 㑭 㑮 㑯 㑰 㑱 㑲 㑳 㑴 㑵 㑶 㑷 㑸 㑹 㑺 㑻 㑼 㑽 㑾 㑿 㒀 㒁 㒂 㒃 㒄 㒅 㒆 㒇 㒈 㒉 㒊 㒋 㒌 㒍 㒎 㒏 㒐 㒑 㒒 㒓 㒔 㒕 㒖 㒗 㒘 㒙 㒚 㒛 㒜 㒝 㒞 㒟 㒠 㒡 㒢 㒣 㒤 㒥 㒦 㒧 㒨 㒩 㒪 㒫 㒬 㒭 㒮 㒯 㒰 㒱 㒲 㒳 㒴 㒵 㒶 㒷 㒸 㒹 㒺 㒻 㒼 㒽 㒾 㒿 㓀 㓁 㓂 㓃 㓄 㓅 㓆 㓇 㓈 㓉 㓊 㓋 㓌 㓍 㓎 㓏 㓐 㓑 㓒 㓓 㓔 㓕 㓖 㓗 㓘 㓙 㓚 㓛 㓜 㓝 㓞 㓟 㓠 㓡 㓢 㓣 㓤 㓥 㓦 㓧 㓨 㓩 㓪 㓫 㓬 㓭 㓮 㓯 㓰 㓱 㓲 㓳 㓴 㓵 㓶 㓷 㓸 㓹 㓺 㓻 㓼 㓽 㓾 㓿 㔀 㔁 㔂 㔃 㔄 㔅 㔆 㔇 㔈 㔉 㔊 㔋 㔌 㔍 㔎 㔏 㔐 㔑 㔒 㔓 㔔 㔕 㔖 㔗 㔘 㔙 㔚 㔛 㔜 㔝 㔞 㔟 㔠 㔡 㔢 㔣 㔤 㔥 㔦 㔧 㔨 㔩 㔪 㔫 㔬 㔭 㔮 㔯 㔰 㔱 㔲 㔳 㔴 㔵 㔶 㔷 㔸 㔹 㔺 㔻 㔼 㔽 㔾 㔿 㕀 㕁 㕂 㕃 㕄 㕅 㕆 㕇 㕈 㕉 㕊 㕋 㕌 㕍 㕎 㕏 㕐 㕑 㕒 㕓 㕔 㕕 㕖 㕗 㕘 㕙 㕚 㕛 㕜 㕝 㕞 㕟 㕠 㕡 㕢 㕣 㕤 㕥 㕦 㕧 㕨 㕩 㕪 㕫 㕬 㕭 㕮 㕯 㕰 㕱 㕲 㕳 㕴 㕵 㕶 㕷 㕸 㕹 㕺 㕻 㕼 㕽 㕾 㕿 㖀 㖁 㖂 㖃 㖄 㖅 㖆 㖇 㖈 㖉 㖊 㖋 㖌 㖍 㖎 㖏 㖐 㖑 㖒 㖓 㖔 㖕 㖖 㖗 㖘 㖙 㖚 㖛 㖜 㖝 㖞 㖟 㖠 㖡 㖢 㖣 㖤 㖥 㖦 㖧 㖨 㖩 㖪 㖫 㖬 㖭 㖮 㖯 㖰 㖱 㖲 㖳 㖴 㖵 㖶 㖷 㖸 㖹 㖺 㖻 㖼 㖽 㖾 㖿 㗀 㗁 㗂 㗃 㗄 㗅 㗆 㗇 㗈 㗉 㗊 㗋 㗌 㗍 㗎 㗏 㗐 㗑 㗒 㗓 㗔 㗕 㗖 㗗 㗘 㗙 㗚 㗛 㗜 㗝 㗞 㗟 㗠 㗡 㗢 㗣 㗤 㗥 㗦 㗧 㗨 㗩 㗪 㗫 㗬 㗭 㗮 㗯 㗰 㗱 㗲 㗳 㗴 㗵 㗶 㗷 㗸 㗹 㗺 㗻 㗼 㗽 㗾 㗿 㘀 㘁 㘂 㘃 㘄 㘅 㘆 㘇 㘈 㘉 㘊 㘋 㘌 㘍 㘎 㘏 㘐 㘑 㘒 㘓 㘔 㘕 㘖 㘗 㘘 㘙 㘚 㘛 㘜 㘝 㘞 㘟 㘠 㘡 㘢 㘣 㘤 㘥 㘦 㘧 㘨 㘩 㘪 㘫 㘬 㘭 㘮 㘯 㘰 㘱 㘲 㘳 㘴 㘵 㘶 㘷 㘸 㘹 㘺 㘻 㘼 㘽 㘾 㘿 㙀 㙁 㙂 㙃 㙄 㙅 㙆 㙇 㙈 㙉 㙊 㙋 㙌 㙍 㙎 㙏 㙐 㙑 㙒 㙓 㙔 㙕 㙖 㙗 㙘 㙙 㙚 㙛 㙜 㙝 㙞 㙟 㙠 㙡 㙢 㙣 㙤 㙥 㙦 㙧 㙨 㙩 㙪 㙫 㙬 㙭 㙮 㙯 㙰 㙱 㙲 㙳 㙴 㙵 㙶 㙷 㙸 㙹 㙺 㙻 㙼 㙽 㙾 㙿 㚀 㚁 㚂 㚃 㚄 㚅 㚆 㚇 㚈 㚉 㚊 㚋 㚌 㚍 㚎 㚏 㚐 㚑 㚒 㚓 㚔 㚕 㚖 㚗 㚘 㚙 㚚 㚛 㚜 㚝 㚞 㚟 㚠 㚡 㚢 㚣 㚤 㚥 㚦 㚧 㚨 㚩 㚪 㚫 㚬 㚭 㚮 㚯 㚰 㚱 㚲 㚳 㚴 㚵 㚶 㚷 㚸 㚹 㚺 㚻 㚼 㚽 㚾 㚿 㜀 㜁 㜂 㜃 㜄 㜅 㜆 㜇 㜈 㜉 㜊 㜋 㜌 㜍 㜎 㜏 㜐 㜑 㜒 㜓 㜔 㜕 㜖 㜗 㜘 㜙 㜚 㜛 㜜 㜝 㜞 㜟 㜠 㜡 㜢 㜣 㜤 㜥 㜦 㜧 㜨 㜩 㜪 㜫 㜬 㜭 㜮 㜯 㜰 㜱 㜲 㜳 㜴 㜵 㜶 㜷 㜸 㜹 㜺 㜻 㜼 㜽 㜾 㜿 㝀 㝁 㝂 㝃 㝄 㝅 㝆 㝇 㝈 㝉 㝊 㝋 㝌 㝍 㝎 㝏 㝐 㝑 㝒 㝓 㝔 㝕 㝖 㝗 㝘 㝙 㝚 㝛 㝜 㝝 㝞 㝟 㝠 㝡 㝢 㝣 㝤 㝥 㝦 㝧 㝨 㝩 㝪 㝫 㝬 㝭 㝮 㝯 㝰 㝱 㝲 㝳 㝴 㝵 㝶 㝷 㝸 㝹 㝺 㝻 㝼 㝽 㝾 㝿 㞀 㞁 㞂 㞃 㞄 㞅 㞆 㞇 㞈 㞉 㞊 㞋 㞌 㞍 㞎 㞏 㞐 㞑 㞒 㞓 㞔 㞕 㞖 㞗 㞘 㞙 㞚 㞛 㞜 㞝 㞞 㞟 㞠 㞡 㞢 㞣 㞤 㞥 㞦 㞧 㞨 㞩 㞪 㞫 㞬 㞭 㞮 㞯 㞰 㞱 㞲 㞳 㞴 㞵 㞶 㞷 㞸 㞹 㞺 㞻 㞼 㞽 㞾 㞿 㟀 㟁 㟂 㟃 㟄 㟅 㟆 㟇 㟈 㟉 㟊 㟋 㟌 㟍 㟎 㟏 㟐 㟑 㟒 㟓 㟔 㟕 㟖 㟗 㟘 㟙 㟚 㟛 㟜 㟝 㟞 㟟 㟠 㟡 㟢 㟣 㟤 㟥 㟦 㟧 㟨 㟩 㟪 㟫 㟬 㟭 㟮 㟯 㟰 㟱 㟲 㟳 㟴 㟵 㟶 㟷 㟸 㟹 㟺 㟻 㟼 㟽 㟾 㟿 㠀 㠁 㠂 㠃 㠄 㠅 㠆 㠇 㠈 㠉 㠊 㠋 㠌 㠍 㠎 㠏 㠐 㠑 㠒 㠓 㠔 㠕 㠖 㠗 㠘 㠙 㠚 㠛 㠜 㠝 㠞 㠟 㠠 㠡 㠢 㠣 㠤 㠥 㠦 㠧 㠨 㠩 㠪 㠫 㠬 㠭 㠮 㠯 㠰 㠱 㠲 㠳 㠴 㠵 㠶 㠷 㠸 㠹 㠺 㠻 㠼 㠽 㠾 㠿 㡀 㡁 㡂 㡃 㡄 㡅 㡆 㡇 㡈 㡉 㡊 㡋 㡌 㡍 㡎 㡏 㡐 㡑 㡒 㡓 㡔 㡕 㡖 㡗 㡘 㡙 㡚 㡛 㡜 㡝 㡞 㡟 㡠 㡡 㡢 㡣 㡤 㡥 㡦 㡧 㡨 㡩 㡪 㡫 㡬 㡭 㡮 㡯 㡰 㡱 㡲 㡳 㡴 㡵 㡶 㡷 㡸 㡹 㡺 㡻 㡼 㡽 㡾 㡿 㢀 㢁 㢂 㢃 㢄 㢅 㢆 㢇 㢈 㢉 㢊 㢋 㢌 㢍 㢎 㢏 㢐 㢑 㢒 㢓 㢔 㢕 㢖 㢗 㢘 㢙 㢚 㢛 㢜 㢝 㢞 㢟 㢠 㢡 㢢 㢣 㢤 㢥 㢦 㢧 㢨 㢩 㢪 㢫 㢬 㢭 㢮 㢯 㢰 㢱 㢲 㢳 㢴 㢵 㢶 㢷 㢸 㢹 㢺 㢻 㢼 㢽 㢾 㢿 㣀 㣁 㣂 㣃 㣄 㣅 㣆 㣇 㣈 㣉 㣊 㣋 㣌 㣍 㣎 㣏 㣐 㣑 㣒 㣓 㣔 㣕 㣖 㣗 㣘 㣙 㣚 㣛 㣜 㣝 㣞 㣟 㣠 㣡 㣢 㣣 㣤 㣥 㣦 㣧 㣨 㣩 㣪 㣫 㣬 㣭 㣮 㣯 㣰 㣱 㣲 㣳 㣴 㣵 㣶 㣷 㣸 㣹 㣺 㣻 㣼 㣽 㣾 㣿 㤀 㤁 㤂 㤃 㤄 㤅 㤆 㤇 㤈 㤉 㤊 㤋 㤌 㤍 㤎 㤏 㤐 㤑 㤒 㤓 㤔 㤕 㤖 㤗 㤘 㤙 㤚 㤛 㤜 㤝 㤞 㤟 㤠 㤡 㤢 㤣 㤤 㤥 㤦 㤧 㤨 㤩 㤪 㤫 㤬 㤭 㤮 㤯 㤰 㤱 㤲 㤳 㤴 㤵 㤶 㤷 㤸 㤹 㤺 㤻 㤼 㤽 㤾 㤿 㥀 㥁 㥂 㥃 㥄 㥅 㥆 㥇 㥈 㥉 㥊 㥋 㥌 㥍 㥎 㥏 㥐 㥑 㥒 㥓 㥔 㥕 㥖 㥗 㥘 㥙 㥚 㥛 㥜 㥝 㥞 㥟 㥠 㥡 㥢 㥣 㥤 㥥 㥦 㥧 㥨 㥩 㥪 㥫 㥬 㥭 㥮 㥯 㥰 㥱 㥲 㥳 㥴 㥵 㥶 㥷 㥸 㥹 㥺 㥻 㥼 㥽 㥾 㥿 㦀 㦁 㦂 㦃 㦄 㦅 㦆 㦇 㦈 㦉 㦊 㦋 㦌 㦍 㦎 㦏 㦐 㦑 㦒 㦓 㦔 㦕 㦖 㦗 㦘 㦙 㦚 㦛 㦜 㦝 㦞 㦟 㦠 㦡 㦢 㦣 㦤 㦥 㦦 㦧 㦨 㦩 㦪 㦫 㦬 㦭 㦮 㦯 㦰 㦱 㦲 㦳 㦴 㦵 㦶 㦷 㦸 㦹 㦺 㦻 㦼 㦽 㦾 㦿 㧀 㧁 㧂 㧃 㧄 㧅 㧆 㧇 㧈 㧉 㧊 㧋 㧌 㧍 㧎 㧏 㧐 㧑 㧒 㧓 㧔 㧕 㧖 㧗 㧘 㧙 㧚 㧛 㧜 㧝 㧞 㧟 㧠 㧡 㧢 㧣 㧤 㧥 㧦 㧧 㧨 㧩 㧪 㧫 㧬 㧭 㧮 㧯 㧰 㧱 㧲 㧳 㧴 㧵 㧶 㧷 㧸 㧹 㧺 㧻 㧼 㧽 㧾 㧿 㨀 㨁 㨂 㨃 㨄 㨅 㨆 㨇 㨈 㨉 㨊 㨋 㨌 㨍 㨎 㨏 㨐 㨑 㨒 㨓 㨔 㨕 㨖 㨗 㨘 㨙 㨚 㨛 㨜 㨝 㨞 㨟 㨠 㨡 㨢 㨣 㨤 㨥 㨦 㨧 㨨 㨩 㨪 㨫 㨬 㨭 㨮 㨯 㨰 㨱 㨲 㨳 㨴 㨵 㨶 㨷 㨸 㨹 㨺 㨻 㨼 㨽 㨾 㨿 㩀 㩁 㩂 㩃 㩄 㩅 㩆 㩇 㩈 㩉 㩊 㩋 㩌 㩍 㩎 㩏 㩐 㩑 㩒 㩓 㩔 㩕 㩖 㩗 㩘 㩙 㩚 㩛 㩜 㩝 㩞 㩟 㩠 㩡 㩢 㩣 㩤 㩥 㩦 㩧 㩨 㩩 㩪 㩫 㩬 㩭 㩮 㩯 㩰 㩱 㩲 㩳 㩴 㩵 㩶 㩷 㩸 㩹 㩺 㩻 㩼 㩽 㩾 㩿 㪀 㪁 㪂 㪃 㪄 㪅 㪆 㪇 㪈 㪉 㪊 㪋 㪌 㪍 㪎 㪏 㪐 㪑 㪒 㪓 㪔 㪕 㪖 㪗 㪘 㪙 㪚 㪛 㪜 㪝 㪞 㪟 㪠 㪡 㪢 㪣 㪤 㪥 㪦 㪧 㪨 㪩 㪪 㪫 㪬 㪭 㪮 㪯 㪰 㪱 㪲 㪳 㪴 㪵 㪶 㪷 㪸 㪹 㪺 㪻 㪼 㪽 㪾 㪿 㫀 㫁 㫂 㫃 㫄 㫅 㫆 㫇 㫈 㫉 㫊 㫋 㫌 㫍 㫎 㫏 㫐 㫑 㫒 㫓 㫔 㫕 㫖 㫗 㫘 㫙 㫚 㫛 㫜 㫝 㫞 㫟 㫠 㫡 㫢 㫣 㫤 㫥 㫦 㫧 㫨 㫩 㫪 㫫 㫬 㫭 㫮 㫯 㫰 㫱 㫲 㫳 㫴 㫵 㫶 㫷 㫸 㫹 㫺 㫻 㫼 㫽 㫾 㫿 㬀 㬁 㬂 㬃 㬄 㬅 㬆 㬇 㬈 㬉 㬊 㬋 㬌 㬍 㬎 㬏 㬐 㬑 㬒 㬓 㬔 㬕 㬖 㬗 㬘 㬙 㬚 㬛 㬜 㬝 㬞 㬟 㬠 㬡 㬢 㬣 㬤 㬥 㬦 㬧 㬨 㬩 㬪 㬫 㬬 㬭 㬮 㬯 㬰 㬱 㬲 㬳 㬴 㬵 㬶 㬷 㬸 㬹 㬺 㬻 㬼 㬽 㬾 㬿 㭀 㭁 㭂 㭃 㭄 㭅 㭆 㭇 㭈 㭉 㭊 㭋 㭌 㭍 㭎 㭏 㭐 㭑 㭒 㭓 㭔 㭕 㭖 㭗 㭘 㭙 㭚 㭛 㭜 㭝 㭞 㭟 㭠 㭡 㭢 㭣 㭤 㭥 㭦 㭧 㭨 㭩 㭪 㭫 㭬 㭭 㭮 㭯 㭰 㭱 㭲 㭳 㭴 㭵 㭶 㭷 㭸 㭹 㭺 㭻 㭼 㭽 㭾 㭿 㮀 㮁 㮂 㮃 㮄 㮅 㮆 㮇 㮈 㮉 㮊 㮋 㮌 㮍 㮎 㮏 㮐 㮑 㮒 㮓 㮔 㮕 㮖 㮗 㮘 㮙 㮚 㮛 㮜 㮝 㮞 㮟 㮠 㮡 㮢 㮣 㮤 㮥 㮦 㮧 㮨 㮩 㮪 㮫 㮬 㮭 㮮 㮯 㮰 㮱 㮲 㮳 㮴 㮵 㮶 㮷 㮸 㮹 㮺 㮻 㮼 㮽 㮾 㮿 㯀 㯁 㯂 㯃 㯄 㯅 㯆 㯇 㯈 㯉 㯊 㯋 㯌 㯍 㯎 㯏 㯐 㯑 㯒 㯓 㯔 㯕 㯖 㯗 㯘 㯙 㯚 㯛 㯜 㯝 㯞 㯟 㯠 㯡 㯢 㯣 㯤 㯥 㯦 㯧 㯨 㯩 㯪 㯫 㯬 㯭 㯮 㯯 㯰 㯱 㯲 㯳 㯴 㯵 㯶 㯷 㯸 㯹 㯺 㯻 㯼 㯽 㯾 㯿 㰀 㰁 㰂 㰃 㰄 㰅 㰆 㰇 㰈 㰉 㰊 㰋 㰌 㰍 㰎 㰏 㰐 㰑 㰒 㰓 㰔 㰕 㰖 㰗 㰘 㰙 㰚 㰛 㰜 㰝 㰞 㰟 㰠 㰡 㰢 㰣 㰤 㰥 㰦 㰧 㰨 㰩 㰪 㰫 㰬 㰭 㰮 㰯 㰰 㰱 㰲 㰳 㰴 㰵 㰶 㰷 㰸 㰹 㰺 㰻 㰼 㰽 㰾 㰿 㱀 㱁 㱂 㱃 㱄 㱅 㱆 㱇 㱈 㱉 㱊 㱋 㱌 㱍 㱎 㱏 㱐 㱑 㱒 㱓 㱔 㱕 㱖 㱗 㱘 㱙 㱚 㱛 㱜 㱝 㱞 㱟 㱠 㱡 㱢 㱣 㱤 㱥 㱦 㱧 㱨 㱩 㱪 㱫 㱬 㱭 㱮 㱯 㱰 㱱 㱲 㱳 㱴 㱵 㱶 㱷 㱸 㱹 㱺 㱻 㱼 㱽 㱾 㱿 㲀 㲁 㲂 㲃 㲄 㲅 㲆 㲇 㲈 㲉 㲊 㲋 㲌 㲍 㲎 㲏 㲐 㲑 㲒 㲓 㲔 㲕 㲖 㲗 㲘 㲙 㲚 㲛 㲜 㲝 㲞 㲟 㲠 㲡 㲢 㲣 㲤 㲥 㲦 㲧 㲨 㲩 㲪 㲫 㲬 㲭 㲮 㲯 㲰 㲱 㲲 㲳 㲴 㲵 㲶 㲷 㲸 㲹 㲺 㲻 㲼 㲽 㲾 㲿 㳀 㳁 㳂 㳃 㳄 㳅 㳆 㳇 㳈 㳉 㳊 㳋 㳌 㳍 㳎 㳏 㳐 㳑 㳒 㳓 㳔 㳕 㳖 㳗 㳘 㳙 㳚 㳛 㳜 㳝 㳞 㳟 㳠 㳡 㳢 㳣 㳤 㳥 㳦 㳧 㳨 㳩 㳪 㳫 㳬 㳭 㳮 㳯 㳰 㳱 㳲 㳳 㳴 㳵 㳶 㳷 㳸 㳹 㳺 㳻 㳼 㳽 㳾 㳿 㴀 㴁 㴂 㴃 㴄 㴅 㴆 㴇 㴈 㴉 㴊 㴋 㴌 㴍 㴎 㴏 㴐 㴑 㴒 㴓 㴔 㴕 㴖 㴗 㴘 㴙 㴚 㴛 㴜 㴝 㴞 㴟 㴠 㴡 㴢 㴣 㴤 㴥 㴦 㴧 㴨 㴩 㴪 㴫 㴬 㴭 㴮 㴯 㴰 㴱 㴲 㴳 㴴 㴵 㴶 㴷 㴸 㴹 㴺 㴻 㴼 㴽 㴾 㴿 㵀 㵁 㵂 㵃 㵄 㵅 㵆 㵇 㵈 㵉 㵊 㵋 㵌 㵍 㵎 㵏 㵐 㵑 㵒 㵓 㵔 㵕 㵖 㵗 㵘 㵙 㵚 㵛 㵜 㵝 㵞 㵟 㵠 㵡 㵢 㵣 㵤 㵥 㵦 㵧 㵨 㵩 㵪 㵫 㵬 㵭 㵮 㵯 㵰 㵱 㵲 㵳 㵴 㵵 㵶 㵷 㵸 㵹 㵺 㵻 㵼 㵽 㵾 㵿 㶀 㶁 㶂 㶃 㶄 㶅 㶆 㶇 㶈 㶉 㶊 㶋 㶌 㶍 㶎 㶏 㶐 㶑 㶒 㶓 㶔 㶕 㶖 㶗 㶘 㶙 㶚 㶛 㶜 㶝 㶞 㶟 㶠 㶡 㶢 㶣 㶤 㶥 㶦 㶧 㶨 㶩 㶪 㶫 㶬 㶭 㶮 㶯 㶰 㶱 㶲 㶳 㶴 㶵 㶶 㶷 㶸 㶹 㶺 㶻 㶼 㶽 㶾 㶿 㷀 㷁 㷂 㷃 㷄 㷅 㷆 㷇 㷈 㷉 㷊 㷋 㷌 㷍 㷎 㷏 㷐 㷑 㷒 㷓 㷔 㷕 㷖 㷗 㷘 㷙 㷚 㷛 㷜 㷝 㷞 㷟 㷠 㷡 㷢 㷣 㷤 㷥 㷦 㷧 㷨 㷩 㷪 㷫 㷬 㷭 㷮 㷯 㷰 㷱 㷲 㷳 㷴 㷵 㷶 㷷 㷸 㷹 㷺 㷻 㷼 㷽 㷾 㷿 㸀 㸁 㸂 㸃 㸄 㸅 㸆 㸇 㸈 㸉 㸊 㸋 㸌 㸍 㸎 㸏 㸐 㸑 㸒 㸓 㸔 㸕 㸖 㸗 㸘 㸙 㸚 㸛 㸜 㸝 㸞 㸟 㸠 㸡 㸢 㸣 㸤 㸥 㸦 㸧 㸨 㸩 㸪 㸫 㸬 㸭 㸮 㸯 㸰 㸱 㸲 㸳 㸴 㸵 㸶 㸷 㸸 㸹 㸺 㸻 㸼 㸽 㸾 㸿 㹀 㹁 㹂 㹃 㹄 㹅 㹆 㹇 㹈 㹉 㹊 㹋 㹌 㹍 㹎 㹏 㹐 㹑 㹒 㹓 㹔 㹕 㹖 㹗 㹘 㹙 㹚 㹛 㹜 㹝 㹞 㹟 㹠 㹡 㹢 㹣 㹤 㹥 㹦 㹧 㹨 㹩 㹪 㹫 㹬 㹭 㹮 㹯 㹰 㹱 㹲 㹳 㹴 㹵 㹶 㹷 㹸 㹹 㹺 㹻 㹼 㹽 㹾 㹿 㺀 㺁 㺂 㺃 㺄 㺅 㺆 㺇 㺈 㺉 㺊 㺋 㺌 㺍 㺎 㺏 㺐 㺑 㺒 㺓 㺔 㺕 㺖 㺗 㺘 㺙 㺚 㺛 㺜 㺝 㺞 㺟 㺠 㺡 㺢 㺣 㺤 㺥 㺦 㺧 㺨 㺩 㺪 㺫 㺬 㺭 㺮 㺯 㺰 㺱 㺲 㺳 㺴 㺵 㺶 㺷 㺸 㺹 㺺 㺻 㺼 㺽 㺾 㺿 㻀 㻁 㻂 㻃 㻄 㻅 㻆 㻇 㻈 㻉 㻊 㻋 㻌 㻍 㻎 㻏 㻐 㻑 㻒 㻓 㻔 㻕 㻖 㻗 㻘 㻙 㻚 㻛 㻜 㻝 㻞 㻟 㻠 㻡 㻢 㻣 㻤 㻥 㻦 㻧 㻨 㻩 㻪 㻫 㻬 㻭 㻮 㻯 㻰 㻱

両首に混じるうめき声が嗚咽^{めいげん}に変わった。

「あやめちゃん、どうしたの？」

「だいじょうぶ？ あやめちゃん」

ハルくんとエリちゃんは、いつもしゃかり者のあやめちゃんが泣きだし

たので、すっかりうるたえている。

「……もうひと息、『助けて』っていいな」

フードの下でゆりっぺが、くちびるをかみしめる。

そのときだった。

「うわあーん。重いよね、だれか持ってー」

⑩風船が破裂したような泣き声が林にひびきわたった。あまりの大声に、

あたりの枝がふるえて水滴がしたたった。

「いえたー」

⑪野々歩とゆりっぺが顔を見あわせたと同時だった。林道をびちゃびちゃ

と、泥水をはねとばしながら駆けもどってくる子がいた。輝くんだ！

「ごめん、あやめちゃん。持つよ」

肩で息をしながら輝くんは、すぐにあやめちゃんの腕から炊飯器を取り

あげた。

「えっ、えっ、ありがとう」

しゃくりあげながら、あやめちゃんはお礼をいった。顔は雨と涙と鼻水

でぐしょぐしょだ。よほどほっとしたのだろう、「ふうー」というため息

とともに落とした細い肩かいじらしかった。

⑫——よかったあ。

⑬野々歩のどがつまる。横目でうかがうと、ゆりっぺも手の甲で鼻をこ

すっていた。

「おうりゃあー」

頭の上まで持ちあげそうな勢いで炊飯器をかえあげると、輝くんはお

しりをつぎだしたアヒル歩きでまたまた歩きだした。なんとも、ぶかっこ

う。だけど一生懸命な背中がカッコいい。

「輝くん、ナイスフオロー、サンキュー」

ゆりっぺのはすんだ声かけに、輝くんは勇ましく、

「おう」

と前を向いたままこたえた。

(八束澄子『森と、母と、わたしの二週間』)

(注) わたち——車が通ったあとに残る車輪のあと。

キヤパオパー——処理能力を超えてしまった状態。

問一 傍線部①・②・③の漢字の読み方を平仮名で書きなさい。

問二 傍線部⑥で使われている表現技法を、次のア～エから一つ選んで、

その符号を書きなさい。

ア 直喩(明喩) イ 隱喩(暗喩) ウ 倒置 エ 体言止め

問三 傍線部③・④の本文中の意味として最も適切なものを、次の各群の

ア～エからそれぞれ一つ選んで、その符号を書きなさい。

③ ア 手を貸し

イ 振り返り

ウ 声をかけ

エ 後戻りし

④ ア 晴れやかだった

イ けなげだった

ウ 穏やかだった

エ 悔しげだった

問四 傍線部④の野々歩の心情の説明として最も適切なものを、次のア～

エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア あやめちゃんが重い荷物を持って苦しんでいることに気づきもせ

ずに、ゆりっぺが先を急いでいることに納得できなideる。

イ 重い荷物を持って困っているあやめちゃんを助けようとしたの

に、それをゆりっぺに止められたことにいらだちを感じている。

ウ 一人で重い荷物を運んでいるあやめちゃんを見たのに、ゆりっぺ

が園児たちに何の指示もないことに不信感を抱いている。

エ あやめちゃんが重い荷物を運べずにいることを知りながら、ゆ

りっぺと自分とが何もできないことに悔しさを覚えている。

問五 傍線部⑤のゆりっぺの説明として最も適切なものを、次のア～エから

ら一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア いとも無理をしすぎてしまうあやめちゃんが、幼稚園での生活を

とおして周りの人を頼ることを学んでくれるように心の底では応援

しつつも、あえて突き放した態度を取っている。

イ つらい時に人を頼るよう教えられてきたあやめちゃんが、なかなか

かそれを行動へ移せないことに少しずつあせりを募らせつつも、自

分からは助けるまいと決意を新たにしている。

ウ 人を頼ることができないあやめちゃんに対して、周りの園児たち

が手伝おうとしないことを残念に思いつつも、園児たちの成長のた

めに手出しをしないでおこうと心に決めている。

エ 自分が持っている力以上に頑張ろうとしてしまうあやめちゃんに

対して、意地を張る心の強さは認めつつも、取り返しのつかない事

態になる前に野々歩と助けに行こうとしている。

問六 傍線部⑦の野々歩とゆりっぺの説明として最も適切なものを、次の

ア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア あやめちゃんの泣き声を聞きつけ、野々歩とゆりっぺよりも先に

救いの手を差し伸べる園児たちを目にし、何も言わずとも助け合う

様子を喜ばしく思っている。

イ 待ちに待ったあやめちゃんからの呼び声を聞き、自分たちの我慢

が実ったことを喜びながら、いち早くあやめちゃんのもとへ駆け寄

ろうとしている。

ウ あやめちゃんが泣きながら他の人に助けを求めることができた喜

びを、それまで何の手出しもせずに我慢し続けてきた二人で分かち

合おうとしている。

エ 意地を張り続けてきたあやめちゃんが感情をあらわにして周りの

園児たちに助けを求めたことを喜び、一人の園児が見せた成長を涙

ながらに喜んでいる。

問七 傍線部⑩の理由を説明した次の文の空欄 a・b に入る適切なことは

を、それぞれ本文中から抜き出して書き出して書きなさい。ただし、a は二字、

b は六字のこととはとする。

あやめちゃんの変化に心を動かされたことに加えて、ボラン
ティアに参加するまでは人に助けを求めたら a だと後ろ向
きに考えていた野々歩が、苦しさを吐露すれば b 人がいる
ことを実感し、胸がいっぱいになったから。

問八

本文の登場人物の説明として最も適切なものを、次のア～エから一

つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 野々歩は、園児たちとの交流や大人との対立を経て、臆病な自分

を乗り越え、周囲の人々と関わっていきこうとする前向きな人物とし

て描かれている。

イ ゆりっぺは、園児たちの変化を見逃さず、いつも声をかけること

で、子どもたちが成長することに情熱を傾けるプロ意識の高い人物

として描かれている。

ウ あやめちゃんは、森での出来事をきっかけに、希薄な人間関係を

見つめ直し、他の園児と良好な関係を築こうとする大人びた人物と

して描かれている。

エ 輝くんは、他の園児が困っていることに気づくと、ぬかるみのな

かを舞い戻り、その子をすぐに苦境から救い出す頼もしい人物とし

て描かれている。

芸術というのは、いんなことを感じていい、考えていいと促してくれ
るものです。想^Aづかう力の広がり示しているわけですから、同時に、ア
ーティストは、自分には思いつかないような、ものの限定の仕方を教えてく
れる。「こういう形にするのか」という面白さです。概念として言えば、
それは、ある個性的な仕方で「有限性」を示すことです。多すぎる可能性
のなかで、作品という有限なものを仮固定する。

ある特定の形にこだわる画家がいれば、ある響きにこだわる音楽家もい
る。それは絶対のものではありません。① わけです。ですから、芸
術になじむには、いんななアーティストのいんな作品を見ることが大事
です。ものを限定するやり方にはいろいろあるということ、つまり、「有
限性の多様性」がわかるからです。それによって自分の生き方が柔軟に
なっていく。自分の生活においても、楽しみを見出せるポイントもって
多様だということに気づくでしょう。

② たくさん例を見ること、仮固定でいいんだということがわかってく
る。風景を描くときに、絶対唯一、最高の描き方というものはない。さま
ざまな作品のあり方は、どれも仮のもの。最高傑作とか究極の何々と呼ば
れるものがあるわけですが、たくさん見ているうちに、「確かにそれは傑
作だけど、他にもいいものはある」という感覚が育ってきます。

現実の目的達成では、しばしば、他にはやりようがなくてそうするしか
ないという結論になるわけですが、芸術はそうではなく、多様性や相対性
を教えてくれるのです。そして、大きく見て人生のリズムというの、い
ろいろでいいじゃないかということになる。

多様な芸術があるということに近づけて、人生の多様性を肯定できるよ
うになっていく。ただ、ここには重要な衝突があり、人間社会には、こう
するのが正しい、これが善でこれが悪だという倫理や正義の問題がありま
す。倫理や正義に関して、絶対のものがあるかどうかにはここでは立ち入り

来事に対する別の見方を探るといことです。

こういう言い方にはハッ^B発を抱く人がいるかもしれませんが、どんな悪人の人生でも、芸術的観点で見ればひとつの作品だと言えます。実際、文学作品では、現実の社会では許されないことが、人間のある種どうしようもないひとつの可能性として描かれたりします。そのときにそれは、「こ

ういう悪い人間に氣をつけましょう」といった注意喚起のメッセージを踏

しているわけではありません。

ほかならないのです。
 人間は、他の動物に比べて、非常に大きく可能性を余らせている存在であり、だから進延を生きている一方で、やはり動物なので、目的を最速で達成しようとする傾向もある。この二つが綱引きをする。さっさと目的達成ができることが快である面もあり、他方で、まさに人間らしさとして、途中でまごまごすること、サスペンスを楽しむ面もある。サスペンスは不安、不快でありながら面白い。ツカンの享樂です。

ひとつは、目的達成の楽しさをコミュニケーションする方法で、架空の目的に向けて何段階ものハードルを設定し、そのサスペンスを楽しむというものの。それが遊びやゲームであり、これはあくまでも目的志向なので、お

そらく本能的になじみやすく、芸術よりもポピュラーだと言えるでしょう。やはり人は動物であって、目的達成が生きていることのメインだからです。それに対して、目的達成より途中の宙づり状態がメインになると、より芸術的になってくる。ただ、それは不安と背中合わせなので、目的性がより

りはつきりした遊びやゲームに比べてポピュラリー^{ポピュラリティー}が低くなります。

人間の生活は、目的志向と、宙づりを味わう不安混じりの享楽という二つをミックスすることできています。人によってはそのバランスがどちらかに片寄っている場合があるでしょう。

ゲームにせよ、芸術的な宙づりにせよ、人間にとって楽しさの本質というのは、ただ安心して落ち着いている状態ではないわけです。楽しいということは、どこかに「問題」があるということです。漠然と問題があつて、興奮性が高まっていることが、不快なのに楽しい。楽しさのなかに

は、そのように「否定性」が含まれている。普通は、否定的なものは避けようとするので、このことは意識に上ってきません。しかし、芸術あるいはエンターテインメントを考えると、これは非常に本質的なことです。

(注) ラカン——フランスの哲学者。
ポピュラリー——人気。

問一 二重傍線部A、Cの漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群のA、Eからそれぞれ一つ選んで、その符号を書きなさい。

- A ア 食料を貯^{たくわ}える。 イ ソウ器を移植する。
ウ 映^{うつ}ソウが頭に浮かぶ。 エ ソウ木林を歩く。
B ア ハン額で購入する。 イ ハン長を決める。
ウ ハン画を彫る。 エ 光がハン射する。
C ア ジョウ例を制定する。 イ ジョウ壁を修理する。
ウ ジョウ留水を作る。 エ ジョウ船客を案内する。

問二 傍線部③はどの文節に係るか。一文節で抜き出して書きなさい。
問三 空欄①に入ることばとして最も適切なものを、次のA、Eから一つ選んで、その符号を書きなさい。

- A 根底で共通する I 分野ごとに異なる
ウ 人によって違う E 時を経て伝わる

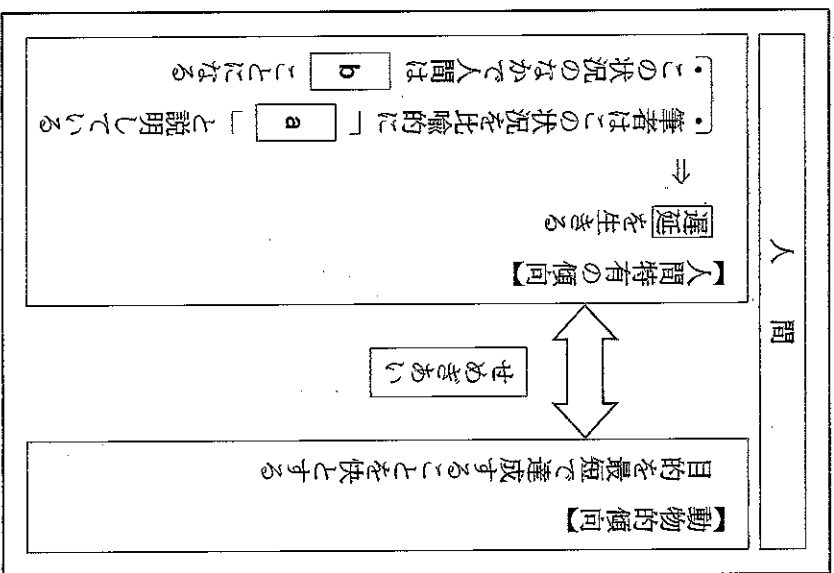
問四 傍線部②の説明として最も適切なものを、次のA、Eから一つ選んで、その符号を書きなさい。

- A 鋭い感性を研ぎ澄ますために様々な表現方法を探究すればよい。
イ 芸術が示す無数の見方から暫定的にどれかを選択すればよい。
ウ 最上の美的表現を求めて自分の技術を向上させ続けられよい。
E 身近にある芸術作品を順に取り上げて批判的に鑑賞すればよい。

問五 傍線部④の理由として最も適切なものを、次のA、Eから一つ選んで、その符号を書きなさい。

- A 人間は元来際限のない選択肢を持ち、非道德的な行動をとりうるので、現実の社会では善悪の区別を示しておくことが必要だから。
イ どんな生き方も肯定される芸術の世界では、人間は自由に生き方を選択できるため、芸術は人間に善行を促すものとはならないから。
ウ 現実の社会で人々は倫理観を求められており、芸術によってそれに揺らぎが生じないように、厳格な取り締まりが不可欠だから。
E 社会問題のなかには多様な議論を巻き起こすものがあり、他者との協調に向けて、人々に対して規制を設けることが肝要だから。

問六 傍線部⑤を説明した【図】の空欄 a・b に入る適切なことは、a は本文中から三字で抜き出して書き、b はあとのア～エから最も適切なものを一つ選んで、その符号を書きなさい。



- ア 不安がなくなり安心する
- イ 即座に理想の選択を行う
- ウ 時間の経過に快を見出す
- エ 不快と快を同時に味わう

問七 傍線部⑥の説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 現実の社会問題を解決する過程で、不安を取り除くために自分で何度もコミュニケーションを実施し、課題解決への道筋を探る活動。

イ 余暇において、現実の社会における目的達成の場面に以上に変な障害を自分で設定し、それを乗り越える過程の不安を味わう活動。

ウ 架空の目標の達成に至るまでに適度な不安を感じながら、現実の社会と同じように目的を達成する楽しさを擬似的に体験する活動。

エ 余暇を楽しむために、現実社会とは違って、不快を覚えずに困難を克服していく喜びを味わうことができるように工夫された活動。

問八 本文に述べられている人間と芸術の関係の説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 芸術的な感覚に優れた人間は、それぞれが持つ個性を発揮して、社会問題に対して思いも寄らない観点からの解決方法を提示できる。

イ 芸術に親しむことをとおして、人間は様々な視点を獲得し、結果として柔軟に自身の生き方を選択することができるようになる。

ウ 人間は社会生活で身に付けた倫理や正義に従って、芸術によって示される多様な生き方から自身に最適なものを選び取っている。

エ 人間の楽しさは目的達成と不安混じりの享楽という二種類の要素から構成されており、その調和は芸術によって維持されている。